

# 生駒 茂さんを偲んで

最近顔を拝見していないなと思った矢先の昨年9月、幹事長メールで東京秋工会監事 生駒 茂さん(S33C)のご逝去を知った。

生駒さんを偲ぶ記事を担当するに当たり、2017年に秋田関連の某会が刊行した「首都圏在住秋田人・一〇〇人の物語」という本の制作を担当した際に生駒さんにも寄稿いただいたことを思い出し、私なんぞが書くよりも、生駒さんご自身が綴った半生記を掲載する方が生駒さんの人となりを偲ぶことができるのではないかと考えた。

以下、生駒さんが同本に寄稿された半生記(2017年 記)である。

\*\*\*\*\*

## 70数年の人生を振り返り

生駒 茂 昭和14年生まれ  
由利郡子吉村出身/千葉市若葉区在住



生駒 茂さん

私は、昭和14年7月、当時の由利郡子吉村に、8人兄弟の五番目(三男)として生まれ、子吉小学校・中学校、昭和33年3月に秋田工業高校を卒業と同時に、東京日本橋に本社がある建設会社に就職した。

親兄弟は、将来学校の先生にでもなれば、という考えがあったように思う。しかし、子供の頃は、絵を描く、習字を習う、ものを作る、といった、何かを作ることに自分の興味があったのかもしれない。結局、卒業と同時に、当時の4級職の公務員の試験、一次をパスしていたにも拘わらず二次の試験を取りやめ、建設会社に入社することに決めた。

高校時代の思い出としたり、朝6時前には家を出て、当時の矢島線、四両編成の客車の最後に、窓もない貨車が連結され、その貨車の暗闇の中に閉じ込められて一駅、約10分乗車し羽後本荘駅より羽越線で秋田まで通学したことを思い出す。2時間半程の時間を要したのに、皆勤であったことは自慢できる。また、小学・中学、そして高校も含め、12年間、学校は休みなしだったことは、今でも(孫たちには)自慢できることだろう。しかし、冬などは、午後からの授業より受けられなかったことも、年に数回あったように思う。

◆◆◆◆◆

さて、昭和33年4月に入社し、教育担当所長の現場事務所を拠点に、半月ほどの現場見学・研修を受けた。それが東京渋谷駅前の六本木通りの道路工事の事務所であった。

その研修も終え、最初に派遣されたのが当時の国鉄・東北本線黒磯駅構内拡張工事の現場であった。この現場の本体工事は殆ど終了し、僅かに周辺の水路等の整備が残されているだけであった。先日、那須岳で痛ましい事故があったが、この黒磯・那須高原が、私の社会人としての人生の振り出しなのである。

60歳の定年の年、ほぼ1年の期間、千葉県佐原市の会社に出向を命じられたが、殆どが会社の工事現場の作業所勤務であった。今思えば、大変苦しい現場生活を経験した思いもあるが、この機会にそのすべてを振り返り、自分の人生の反省をしている。営利を目的とした会社の中で、与えられた工事の採算は現場の責任者に重くのしかかってくる。しかし、私自身は大いに会社に貢献したつもりでいるのが不思議な事である。

今、3年後のオリンピックが大きな話題になることがあるが、前回の東京オリンピックの前、首都高4号線・神田橋や信濃町付近の工事に携わったこともあり、楽しかった現場が多々ある。先ずは東京デイズニードの建設工事、そしてキングフィールズゴルフコースの造成である。また、今でも自慢できるのは、これらの工事に一緒に携わることが出来た先輩・同僚に大いに感謝出来ることである。

会社の定年退職後、それまで10数年経験した、土地区画整理事業の組合設立・発足の準備業務に携わり、そして数年後に行政の

認可が降り、引き続きその事業の運営・管理に事務局員として従事することになった。以前は、住宅地造成と言え、開発者が土地を買収し、その土地開発を行っていたが、昭和29年の土地区画整理法の制定に伴い、土地所有者に減歩という負担を果たし、その法律に従い事業及び工事を進めることが出来るようになった。自分で事業の進行に携わるようになり思い出したのが、会社に入社直後当時の日本住宅公団生田団地造成工事である。この工事が私にとって、最初の区画整理の工事経験だったと記憶する。

42年間の会社生活、そして退職後の12年間は、柏市内の土地区画整理事業に事務局員として勤務し、72歳の時に携わっていた仕事を以前の後輩に委ね、一区切りをつけた。

会社勤務時代は工事施工管理の業務であり、特に安全に対する考え方は当然であるが厳しさを要求された。しかし、50数年の間その会社方針に従い、その要求には答えられたものと自負する。安全管理、各種の資格等は率先して学び、高校時代の測量士を始めとして、監理技術者・土地区画整理士・技術士の資格取得に至ったのである。会社入社当初、土木技術・土木施工などの技術雑誌はあったが、難しいことは遠ざけ、比較的安易に習得できる教科書等を復習していたように思う。ましてや技術士の資格に挑戦するなどというのは、考えてもいなかった。土地区画整理事業に携わってから、他人の土地・財産に図面を描き、その土地をより価値の高いものに仕上げるのである。土地所有者にとっては、大切な財産を委ねるのであり、その責任はより重大なことである。疎かな考え方で、人の財産を傷つけるようなことは出来ない。土地所有者(権利者)に法律に従った事業の進め方を説明し、価値観を高めてその土地を返す。十分に納得が出来るまで土地所有者に説明し、事業の管理をすることがこの20数年間の私の仕事であった。

◆◆◆◆◆

常勤の仕事を終え、一時は何をしようかと考えることがあったが、やがて落ち着き、残された人生をいかに健康に過ごすことが出来るかであった。その為に、毎月の予定を作成し、如何に規律正しい1ヶ月を過ごすかである。

現在、朝3時過ぎには起き、約1時間弱のウォークを続けている。時速6キロ程の速さで歩き、それを1日のスタートにする。その実施率も、当初は60%程度であったが、現状は80%にいかに近づけるかに挑戦している。1日の始まりを規律正しくはじめ、目標は歩数計の数字が、1日・1万2,000歩を超えることにある。この数字を達成すると、夕食時の飲み物(酒)が美味しく感じる。如何に呑兵衛の子孫であるか、察しがつく。

歩き始めてから、まもなく8,000キロを超える。毎日、パソコンに入力し、ある日新聞で見た南極までの距離、1万4,000キロに到達する迄、歩き続けたい。毎日、健康であることが地域活動にも参加でき、明るい毎日の生活が送れる。これが私のこれからの人生のように思う。

(2017・04・29 記)

\*\*\*\*\*

定例の役員会を新宿ヒルトン地階の「音羽亭」でやっていた頃、特に決まりはなかったが、ほぼ毎回席が同じで、私の向かい側の席にはいつも生駒さんがいた。

私も散歩好きであることから先の文章後半に書かれているようなウォークの話をよくお聞きした。最後にその話をしたのはいつ頃だったか…、何でも、もうすでに南極には達して、折り返しに入っている、とおっしゃっていた。

あちらでもウォークを楽しんでおられるだろうか。

心よりご冥福をお祈りいたします。 合掌